

令和元年度第1回通常理事会、令和元年度定時評議員会議決

# 平成30年度 事業報告書

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月 31日

公益財団法人 仏教伝道協会

# 公益財団法人仏教伝道協会

## 平成30年度事業報告書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

については、定款に定める事業に沿って「平成30年度事業報告」を致します。

平成30年4月1日より平成31年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

### 1. 公益目的事業報告（公1）

#### 1. 趣旨（目的）まとめた理由

仏教典籍の現代語訳、外国語訳を行いその刊行、普及事業や仏教関連の各種講座、研究会の開催による仏教精神の啓蒙活動、さらに仏教音楽祭などによる仏教文化の興隆と継承活動、また仏教精神、学術、文化の振興に積極的に関わってきた個人、団体への顕彰・助成等いろいろな支援事業を通して、世界中の一人でも多くの人に仏教を理解して頂き、豊かな人間性を育て、より良い社会の形成促進をもって人類の幸福と世界平和の実現という共通の目的達成の手段であり、下記の2-1) から2-3) までの事業はつながりのあることから一つにまとめている。

#### 2. 事業

##### 2-1) 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

###### 1. 仏教聖典の現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

###### ◇「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に仏教思想を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は46言語。また聖典を現代に即した内容にするため、モンゴル語(モンゴル文字)・ベトナム語・ゾンカ語等の改訂を進めるとともに、「仏教聖典」のより詳細な典拠の確認作業も進行中である。

###### ◇「仏教聖典」インターネット公開について

インターネット上に「仏教聖典」を公開し、世界の様々な環境にあるより多くの方がたに母国語で仏教に触れていただくため、平成31年3月より仏教伝道協会HPにて、現在改訂中の5言語を除いた41言語の「仏教聖典」PDF版の公開を開始した。

###### ◇「仏教聖典」のホテル普及について

「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動を推進し、国内のホテル30軒、海外のホテル42軒より新規申し込みを受けた。

新規・補充を合わせた平成30年度の寄贈冊数は、国内約11,800冊、海外約30,300冊となった。国内外あわせてホテル累計寄贈数は62カ国、約15,300軒・4,065,000冊に至った。

◇「ホテルマネジメントセミナー」におけるプレゼンテーションについて

ホテル関係者に当協会の活動を周知し、「仏教聖典」のホテル常備活動を推進するため、ホテル向け専門誌の発行やホテル経営者向けセミナーを行っている㈱オータパブリケーションズの協力のもと、仏教伝道協会職員による協会の活動や『仏教聖典』に関するプレゼンテーションを名古屋、那覇、大阪、広島、金沢の5会場で開催されたセミナー内で行った。

◇「仏教聖典」の教育機関等への普及について

仏教的情操教育を喚起するための教育機関等への仏教聖典頒布活動は、平成30年度、大学・高校76校、保育施設181園を中心に、約31,000冊を寄贈した。平成24年度からの頒布開始以来、6年間の寄贈数累計は約384,000冊、寄贈先は全国の仏教系大学・高校の約70%、138校に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として約12,000冊販売した。

海外では、インドのチベット系学校などに『チベット語仏教聖典』『英文仏教聖典』『ヒンディー語仏教聖典』計20,000冊を寄贈した。

◇『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』頒布について

大学・高校等の教育現場で好評な『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』の普及活動を積極的に行い、大学・高校等63校、保育施設18園に、約23,000冊を寄贈した。また、全国寺院へは、施本として5,300冊頒布した。またカラー版の『ブッダに学ぶさどりの言葉』も好評を博し、寺院を中心に約3,000冊を販売した。

◇『ブッダのおしえ』普及について

『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブッダのおしえ』は、増え続ける外国人観光客に日本仏教を紹介するツールとして全国の有名観光寺院、ミュージアム、学校等に約136,900冊（日本語版99,000冊、英語版21,900冊）寄贈した。また、新たに中国語繁体字版・中国語簡体字版・韓国語版も発刊した。2011年からの累計寄贈冊数は日本語版約727,500冊、英語版約186,000冊、中国語繁体字版・中国語簡体字版・韓国語版各10,000冊となった。

2. 英訳大藏経の刊行、頒布事業に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集大成された仏典」である『大正新脩大藏経』の英訳刊行事業を当協会と米国仏教伝道協会の共同事業として、第1期分139典籍の刊行を進めている。これにより平成30年度は『大正新脩大藏経』の最初に位置づけられる第55巻『長阿含経(3)』（全三巻完結）と第56巻『薬師琉璃光如来本願功德経/月上女経』を頒布した。また経典翻訳を速やかに完了させるための新たな方策として平成31年3月より東京大学印度哲学仏教学研究室に委託し『瑜伽師地論』英訳の完成を目指すこととなった。

また米国仏教伝道協会設立40周年を記念行事の一環として、平成30年5月4日に英

訳大蔵経編集委員会・出版委員会合同会議を開催し、事業完了に向け更に連携を密にすることを確認した。

### 3. その他仏教書籍の出版、頒布事業に関する事項

#### ◇「一日一訓カレンダー」と解説書「みちしるべ」普及について

仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育園等へ「一日一訓カレンダー」とその解説書を制作、頒布している。

平成30年度は、「一日一訓カレンダー」八正道シリーズ7冊目の「正念」を刊行。また本年度は、従来の壁掛け型とは別に卓上型を作成し、合計約152,000部を頒布した。また、カレンダー解説書—みちしるべ『正しい念い—正念—』（執筆者中島教之氏）を教化教材として刊行し、約38,000冊を全国の寺院に頒布した。

#### ◇「一日一訓カレンダー」フォトコンテスト及び写真展について

写真を通してより多くの人びとに仏教に親しんでいただくため、「2020年一日一訓カレンダー」用の掲載写真を一般公募する「第5回フォトコンテスト—ほとけの心」を開催した。平成30年1月から8月末までの応募期間中に640件 2,147枚が集まり、平成30年9月6日に審査員会を開催。厳正な審査の上、入選作品32点を選定した。入選作品を掲載したカレンダーは平成31年6月発行予定。

また「第4回フォトコンテスト入選作品の写真展」を東京の築地本願寺（平成30年4月28日-5月27日）、京都の平等院（平成30年6月30日-9月17日）、宮城の瑞巖寺（平成30年10月19日-11月25日）にて開催した。

平等院の写真展では、開催期間中の8月3日、カレンダーの文言の揮毫を依頼している書家 鈴木猛利氏による「書道パフォーマンス」を昨年度に続き披露した。

平成30年度は新たに東北でも写真展を開催でき、三会場合わせて期間中、約40万人の国内外の観光客が来場、入選写真と文言の書を鑑賞した。

#### ◇「釈尊絵伝絵画展」開催について

カレンダーフォトコンテスト写真展に合わせて、平成30年6月30日から9月14日まで、京都宇治の平等院ミュージアム鳳翔館にて、当協会が所蔵する「釈尊絵伝」の原画7枚（野生司香雪画）を、作成時の資料や写真とともに初公開した。

初日には記者会見が開かれ、桂紹隆理事長より「釈尊絵伝」製作の経緯をお話した。

また平成31年1月9日から3月24日には、龍谷ミュージアムにて同絵画展を開催した。

#### ◇「こころの絵本大賞」開催について

鈴木出版（株）協賛、毎日新聞社・（公社）日本仏教保育協会・（公財）全国青少年教化協議会後援のもと、家族・友だち・勇気・いのち・おもいやり・愛情をテーマに、子どもたちにこころの大切さを伝えるための絵本作品を広く一般から募集する第3回「こころの絵本大賞」を開催。平成30年9月25日に審査員会を開催し、75点の応募作品の中から入選作品9点を決定した。

第3回大賞受賞作品「りっぱなひよこ りっぱなにわとり」（作・絵／はっとりひろき）は、平成31年3月に『ひよこがほしいもの』と改題し刊行、全国の仏教系保育施設に5,000冊を頒布した。

また、第2回大賞受賞作品「はしるおじぞうさん」を寺院、保育施設を中心に約35,000冊を頒布した。

◇『ブツダがせんせいー心を育てることも仏教塾(特別版)』英訳について

子ども向け教材として、大きな反響があった『ブツダがせんせいー心を育てることも仏教塾(特別版)』の英訳版『Buddha is our Teacher』を、海外協力機関を中心に約10,000冊を頒布した。

◇『とってもやさしい はじめての仏教』普及について

初心者向けの冊子として仏教の歴史や宗派、仏教用語などを簡潔に解説した『とってもやさしい はじめての仏教』を寺院を中心に約88,000冊を寄贈。平成27年度からの累計寄贈冊数は約383,000冊となった。

また英訳版『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』は訪日観光客向けに日本の仏教寺院参拝作法、仏教に由来する日本文化を紹介する英文冊子として好評であり、約33,000冊をホテル、観光案内所、寺院などに寄贈した。

◇『日めぐりブツダせいかつ』出版準備

『ブツダがせんせい』の執筆者宮下真氏に依頼し、子どもが毎日ブツダの教えを実践できるような内容となる小学校中・高学年向けの新刊書籍発行の準備作業を進めている。『日めぐりブツダせいかつ』のタイトルで令和元年6月に刊行する予定である。

◇「名僧は語る」～名僧法話傑作選～ について

高名な僧侶の法話を手軽に読むことで仏教の素晴らしさを味わっていただけるよう、仏教伝道協会のホームページに「名僧は語る」～名僧法話傑作選～のページを開設した。葉上照澄氏(天台宗)、信楽峻磨氏(浄土真宗本願寺派)、松原泰道氏(臨済宗妙心寺派)、青山俊董氏(曹洞宗)、市川智康氏(日蓮宗)、宮坂宥勝氏(真言宗智山派)、奈良康明氏(曹洞宗)、松濤弘道氏(浄土宗)、花山勝友氏(浄土真宗本願寺派)、石上善應氏(浄土宗)に執筆いただいた法話集から抜粋・編集し作成したものである。

## 2-2) 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

### 1. 留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

平成30年度は世界の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約200通送付、またホームページでの一般公募に合わせて14名の応募があり、平成30年2月16日(金)に開催された仏教学者からなる外国人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、Vladimir Angirov氏(ウラディーミル・アンギーロフ氏、ドイツ国籍、九州大学)、Meghan Howard氏(メガン・ハワード氏、アメリカ国籍、早稲田大学)、Gilsan Lee氏(李吉山氏、韓国国籍、東京大学)の3名に支給した。

◇日本人留学生奨学金制度について

海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学ぶ、日本人の学者・研究者または学生に対して日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

平成30年度は日本の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでも一般公募し、結果6名の応募があり、平成29年12月25日(月)に開催された仏教学者からなる日本人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、山崎一穂氏(カナダ・マックマスター大学)、鈴木伸幸氏(オランダ・ライデン大学)、秦野貴生氏(オーストリア・オーストリア科学アカデミー)の3名に支給した。

◇「奨学生交流会」開催について

来日中の外国人奨学生およびその指導教授、これから留学する、または既に留学を終え帰国した日本人奨学生を対象に、奨学金審査委員のご同席のもと計16名で、互いの研究内容を共有し、交流を深めていただく「奨学生交流会」を、平成30年6月14日(木)に開催した。まず事務局より、仏教伝道協会の活動概要と奨学金事業の意義等を説明した後、各奨学生よりこれまでの研究成果や今後の展望を発表した。その後懇親会の場を設け、更に懇親を深めていただき、仏教伝道協会の活動への理解ならびに今後の奨学生の交流を促進する良い機会となった。

2. 顕彰事業に関する事項

国内外を問わず、仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった個人または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる個人または団体に「仏教伝道文化賞沼田奨励賞」を授与する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている。

平成30年度は、4月下旬より仏教各宗派本山、仏教会、教務支所、仏教系学校、海外各仏教宗派教団本部等に約800通の推薦依頼書を送付、ホームページでも周知を図り、仏教伝道文化賞に30通、沼田奨励賞に22通の推薦書を受領した。

この推薦書をもとに、平成30年7月18日、仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、下記の2名に賞を授与する事を決定、同年10月4日、第52回仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金と記念の盾を贈り表彰した。

各受賞者名、受賞理由は次の通り。

仏教伝道文化賞

受賞者 : 西村恵信 氏

受賞理由: 長年にわたり内外で禅の思想と文化の研究・普及に尽力し、またその成果を分かりやすく伝えた功績。

仏教伝道文化賞沼田奨励賞

受賞者 : みうらじゅん 氏

受賞理由: 仏像ブームを牽引。マイブーム、ゆるキャラ等の命名者であり、若い世代へ仏教精神を発信した功績。

### 3. 助成事業に関する事項

#### ◇団体等への助成について

当財団の事業目的と同じ目的を持ち、その活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。平成30年度は、平成30年1月29日に開催された助成金審査委員会の決定に基づき以下の法人・団体に対して、国内1,985万円、海外US\$925,000、£30,000、€140,400、（海外分日本円換算総額126,334,314円）の助成を実施した。

助成先法人・団体

#### 〈国内・団体支援助成〉

日本印度学仏教学会、日印文化交流ネットワーク、  
特定非営利活動法人鎌倉てらこや

#### 〈国内・事業支援助成/仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動〉

公益財団法人全国教誨師連盟、一般社団法人真仁会、宗教法人佛母寺、  
十夜フェス実行委員会、「祈りの道」気仙三十三観音再興プロジェクト  
大学仏教青年会連合、NPO日印交流を盛り上げる会、一般社団法人向源  
一般社団法人寺子屋ブツダ、東北大学大学院実践宗教学寄附講座、  
全日本仏教青年会（2件：「仏教×SDGs×音楽」実行事業/現代の僧侶を考えるワー  
クショップ実行事業）、一般社団法人在家仏教、京都仏教文化フォーラム  
※内、一般社団法人真仁会は助成事業中止のため助成金全額75万円、一般社団法人  
向源は助成事業規模縮小のため助成金50万円の内20万円の返還を受けた。

#### 〈国内・事業支援助成/仏教学術振興活動〉

龍谷大学龍谷ミュージアム、公益財団法人中村元東方研究所、

#### 〈国内・継続分〉

お寺おやつクラブ

#### 〈海外・事業支援/仏教学術振興活動〉

カリフォルニア大学バークレー校

#### 〈国内・事業支援助成/仏教文化財保護活動〉

東京藝術大学大学院文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室、  
東京藝術大学社会連携センター

#### 〈海外・沼田仏教講座運営維持、新規開設支援助成〉

ハンプルク大学沼田仏教学センター、シカゴ大学神学部、プリンストン大学

#### 〈海外・継続分〉

米国仏教大学院  
ロンドン大学

ウィーン大学（「沼田仏教講座基金」）、ウィーン大学（「沼田仏教講座活動助成」）  
ハンブルグ大学

## 2-3) 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

### 1. 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

#### ◇仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

一般の不特定多数の希望者を対象に、英語を通して仏教精神を学んでいただくことを目的とし、平成23年9月より月1回「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催している。

平成30年度は、平成28年度から講座参加者の学習意欲向上と外国人観光客に英語で仏教を説明できる人材を育成することを目的として開設した「仏教英語ガイド」プログラムを継続。3級コースと2級コースそれぞれ月1回の講座を実施した。

3級コースには81名が通年の講座に参加し、その内40名が3級テスト（筆記・口頭）を受験、38名が合格した。また、2級コースには23名が参加し、その内の15名が2級テスト（筆記・口頭）を受験、15名全員が合格した。2級コースのテストを合格した希望者には、都内寺院に英語ガイドボランティア適性者として推薦状を発行。築地本願寺の英語ボランティア適任者として6名を推薦し、現在6名とも築地本願寺英語ボランティアとして活動している。

また、平成30年度は、過去の2級コースと3級コースの合格者を対象に、2018年1月5日～9日に千葉県成田市内ホテル並びに曹洞宗大本山總持寺（横浜市鶴見区）を会場に開催された第29回WFB世界仏教徒会議・第20回WFBY世界仏教徒青年会議・第11回WBU世界仏教徒大学会議 日本大会のボランティアを募集し、27名が参加。当協会プログラムで学んだ仏教知識と語学力を活かして、15ヶ国約300名の海外参加者の出迎えをはじめ、会議・イベントでの通訳など、多岐にわたる活躍をした。

#### ◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが、「聞・思・修」一体となった仏道を自ら体験することによって、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

平成30年度は、6月6日から6月8日の間、伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「布教伝道～法然上人に学ぶ～」をテーマに掲げ、全国より宗派を超えて43名の僧侶が参集。浄土宗 総本山知恩院を会場に「第48回実践布教研究会」を開催した。

初日の開講式では浄土宗御門主伊藤唯眞猊下よりお言葉を頂戴した。二日目は、念仏行の実践の他、佛教大学学長の田中典彦氏、総本山知恩院布教師会会長の中村晃和氏、宗教評論家のひろさちや氏のご講話を拝聴した。分科会では「これからのお寺のあり方」「仏教の利益（救い）を如何に伝えるか」「多様化する葬送儀礼」をテーマに、参加者同士の活発な意見交換が行われ、宗派を越えて互いに親睦を深めるとともに研鑽を積んだ。

尚、平成30年度は、初めての試みとして、前日分科会（特別法座）を本会前日の6月5日、龍谷大学響都ホール会議室にて開催し、13名の参加者が出席した。

◇仏教聖典を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として、一般の方がたを対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。平成30年度はご講師に小山一行氏（筑紫女学園大学元学長・名誉教授）、塩入亮乗氏（聖観音宗浅草寺 法善院住職）を招き、ホームページ等で告知し、8月と9月を除く計10回開催、のべ317名の参加があった。

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び、事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的として、主に事業経営者や社会人を対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。平成30年度は講師に中野東禅氏、山田義俊氏を招き、案内状や当財団のホームページ等で告知し、8月と9月を除く計10回開催、のべ215名の参加があった。

また生活に活かす会と合同の「秋季研修会」を開催。平成30年度は9月10日に時宗総本山 清浄光寺（遊行寺）、臨済宗建長寺派 圓應寺（閻魔寺）、臨済宗建長寺派 報国寺（竹寺）を訪ね、参加者45名は研鑽を積みつつ、親睦を深めた。

◇BDKシンポジウムの開催について

平成30年度は下記の4回のシンポジウムを企画、実施した。  
各シンポジウムの開催概要は下記の通り。

平成30年度第1回BDKシンポジウム（通算15回目）

仏教伝道文化賞受賞者による講演会

テーマ：ベッドサイドに仏教がある風景 -患者・家族・医療者と共に-

開催日：平成30年8月30日（木）

時 間：13：30～15：00

講演者：長倉伯博 氏（第47回仏教伝道文化賞沼田奨励賞受賞者）

終末期の患者やその家族のケアに取り組む長倉氏を招き、終末期医療と緩和ケアについて講演いただいた。参加者140名。

なお、本シンポジウムは広島で開催し、参加費と書籍販売収入等は平成30年7月西日本豪雨災害被災地支援金として寄付した。

平成30年度第2回BDKシンポジウム（通算16回目）

テーマ：「日本史で読み解く日本仏教の謎」

開催日：平成31年2月13日（火）

時 間：18：00～20：00

講演者：河合 敦 氏（多摩大学客員教授）

歴史に関する著書を執筆し、テレビなどのメディアにも多数出演している河合敦氏を招き、日本における仏教の歴史、歴史上の人物と仏教との関わり、エピソードなどを講演いただいた。参加者138名。

平成30年度第3回BDKシンポジウム（通算17回目）

仏教聖典を経営に活かす会名古屋開催

テーマ：「あなたに贈る 人生の道しるべ」

平成31年3月6日（水）に名古屋にて開催を予定していたが、直前に講師が体調不良となったため開催を中止した。なお参加申込は90名であった。

平成30年度第4回BDKシンポジウム（通算18回目）

テーマ：「歴史で納得 仏像の不思議 -ほとけの由来-」

開催日：平成31年3月19日（火）

時間：18：30～20：30

講演者：藪内佐斗司 氏（彫刻家。東京藝術大学大学院教授）

彫刻家として仏像修復に携わり、仏像解説者としても高い評価を得る藪内佐斗司氏を招き、仏像誕生の由来、仏像から見えてくる時代背景、またその特色などを講演いただいた。参加者119名。

◇「鶴見大学共同企画講座」について

仏教伝道協会の活動の領域を広げ、さらに幅広い世代の方がたに向けて情報を発信するため鶴見大学の特別協力のもと、鶴見大学会館ホールを会場に、死生観をテーマにした講座を2回、日本在住の外国人に向けた英語で行う仏教講座を1回開催した。

各開催概要は次の通り。

1) 平成30年6月23日（土）「生きるのも死ぬのも面倒になったとき」

講師：釈徹宗 氏 名越康文 氏

参加者：149名

2) 平成30年9月1日（土）「死との向き合い方」

講師：南直哉 氏

参加者：164名

3) 平成30年10月13日（土）「ZEN In Japanese Culture」

講師：藤田一照 氏

参加者：65名

◇BDK仏教ヨガ講座について

一般の方がたを対象に、身体と心の健康を養い、心や頭の整理をする場を持っていただくことを目的に、平成27年4月より月1回（毎月第1水曜日、午後7時から午後8時半まで）「BDK仏教ヨガ講座」を開催している。講師は、浄土宗の僧侶で、ヨガインストラクターでもあるガッソ有香氏に依頼し、仏教の法話とヨガの実践を交えた講座を開催。平成30年度はガッソ氏の一身上の都合により、野沢小百合氏が6月から10月までを担当した。結果、年間を通して230名の参加があった。

◇「禅とヨガで知る 手放すこと 受け取ること」について

一般の方がたを対象に、坐禅とヨガのワークショップを体験しながら仏教を学ぶ「禅とヨガで知る 手放すこと 受け取ること」を平成30年4月14日（土）に曹洞宗萬年山青松寺において開催し48名が参加した。釜田無関氏（青松寺）ならび

にヨガ講師 綿本彰氏の指導のもと、法話、坐禅、ヨガを体験し、僧侶とヨガ講師の対談を行った。

◇仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」について

一般の方がたを対象に、日本仏教の各宗派の持つ基本的な教義や宗祖を理解していただくため、4月から11月まで（8月を除く）、月1回（午後7時から午後8時15分まで）、各宗派を代表する若手の僧侶を講師として招き、基本講義60分、法話30分の構成で渋谷駅近くの貸し会議室を会場に開催し、毎回約70名が参加、年間講座参加者数は492名であった。

各開催概要は以下の通り。

開催日程	取り扱った宗派・宗祖	講師名
4月25日（水）	天台宗（聖観音宗）・最澄	塩入亮乗 氏
5月30日（水）	真言宗・空海	松島龍戒 氏
6月27日（水）	浄土宗・法然	吉田龍雄 氏
7月26日（木）	浄土真宗・親鸞	斎藤信行 氏
9月26日（水）	日蓮宗・日蓮	早島英観 氏
10月31日（水）	臨済宗・栄西	細川晋輔 氏
11月28日（水）	曹洞宗・道元	下室覚道 氏

また、仏教についてもう少し深く勉強がしたいという定例講座参加者の要望に応え、平成31（2019）年1月27日（日）に仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」特別編「奈良仏教と平安仏教」を開催。講座第一部では法相宗大本山 薬師寺副執事長である大谷徹英氏による奈良仏教に関する基本講義、参加者からの質問を元に塩入亮乗氏（聖観音宗浅草寺 法善院 住職）と松島龍戒氏（高野山真言宗 功德院 住職）を交えた3名の講師による、奈良仏教と平安仏教の違い、神道との関係性、今後の仏教伝道についてなどをテーマとしたクロストークを行い、72名が参加した。

◇「特別坐禅会」開催について

一般の方がたを対象に、坐禅とヨガのワークショップを体験しながら仏教を学ぶ「特別坐禅会」を昨年に引き続き平成30年11月18日（日）曹洞宗大本山總持寺において開催した。96名が参加し、ヨガと法話と坐禅を体験した。僧侶とヨガ講師の対談では仏教とヨガの共通点を探った。希望者に精進料理の昼食を用意し、食後には諸堂拝観も行った。

◇「仏教甘味と共に味わう 死の体験旅行」開催について

一般の方がたを対象に、「死の体験旅行」のワークショップ（アメリカのホスピスで患者の苦しみや悲しみを理解する目的で作られたプログラムをもとにし、病気になる、やがて死にゆく追体験をするもの）を通して、自身の生き方を考える機会もっていただくため「仏教甘味と共に味わう 死の体験旅行」を平成30年11月10日（土）に開催。38名の参加者は、浄土真宗なごみ庵住職 浦上哲也氏による「死の体験旅行」のワークショップに続き、浄土真宗本願寺派光明寺衆徒 木原祐健

氏による「仏教甘味（仏教に由来する甘味）」についての法話の後、ビュッフェ式で木原師製作の甘味7種を食した。食後は、講師と共にワークショップのまとめをし、自身にとって大切なものを振り返り、命の大切さ、生きていく上で欠かせない食について再度考える機会となった。

◇「体感する仏教 ～港区芝編～」開催について

東京都港区の芝に於いて「それぞれの宗派の教えを体感する」をテーマに「体感する仏教 ～港区・芝編～」(協賛：一般社団法人港区観光協会・公益財団法人全日本仏教会)を平成30年10月13日に開催した。朝の部・昼の部の二部構成とし、朝の部は増上寺(浄土宗)と青松寺(曹洞宗)で「お寺の雰囲気・坐禅を体感する」、昼の部は光明寺(浄土真宗本願寺派)と真福寺(真言宗智山派)で「読経・法話・阿字観(瞑想)・対話を体感する」というテーマで実施した。朝の部・昼の部とも25名ずつの参加者が集まり、それぞれの寺院の僧侶らの交流にもつながった。

◇ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」について

若年層へのアプローチと仏教伝道協会の知名度の拡大をはかるため、関西圏をカバーするFM大阪にて、ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」の放送(毎週土曜日24:55から25:00までの5分間番組)を平成30年6月より開始した。ポッドキャストを通じて関西圏以外からも聴けるため、全国からメッセージが寄せられ、好評を得ている。

◇全日本仏教青年会「現代の僧侶を考えるワークショップ」への参加について

全日本仏教青年会主催の「現代の僧侶を考えるワークショップ」事業を支援し、全国各地で開催された若手僧侶向けワークショップ形式の研修会に参画した。このワークショップは、全国各地の僧侶が宗派を越えて、それぞれのおかれた社会環境や地域事情の中で寺院と仏教伝道の未来について議論し、僧侶間の関係を構築する事業であるが、これに当協会職員1名ないし2名を計17回参加させ、助成金制度を中心に当協会の活動を紹介し、若手僧侶の活動を支援するための有用な情報提供の場として活用するとともに、当協会の諸活動や「仏教聖典」頒布等に対する理解促進を図った。

◇「輝け！お寺の掲示板大賞2018」について

寺院に設置されている掲示板の標語を撮影して、インターネットのSNS(TwitterやInstagram)に投稿してもらい、反響等を参考にしながら大賞を決定する「輝け！お寺の掲示板大賞2018」を企画・実施した。「中外日報」や「仏教タイムス」など仏教系メディアの協力により平成30年7月1日から募集を開始し、テレビ・ラジオなどの国内メディアにとどまらず、中国・台湾でも取り上げられるなど、大きな反響を呼んだ。10月31日までの4か月間の応募期間の中で集まった作品は、Twitter-296作品、Instagram-396作品。総計692の投稿作品の中から今回の大賞は真宗大谷派願蓮寺の掲示板(標語内容「お前も死ぬぞ 釈尊」)が選ばれた。

## 2. 仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤を確立することを目的に、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

平成30年度は音楽普及委員会を2回開催し、2019年開催の「第19回仏教音楽祭」は「能楽と仏教音楽」をテーマとして、狂言師野村萬斎氏を招き、渋谷セルリアンタワー能楽堂にて開催し、能楽のルーツとされる声明（論議）も浅草寺に披露していただくこととした。また、「合唱コンクール」開催に向けての方向性を決議した。

## 3. 三田落語会の事業について

仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を交えて、近隣住民をはじめ一般の方がたに楽しんでいただくと同時に仏教精神の涵養と仏教文化継承を目的とし、平成24年4月から当財団の主催として「三田落語会」を開催運営していたが、平成30年10月より、(株)文化放送、(株)エムアイティギャザリングの主催となり、仏教伝道協会は当落語会を協賛することとした。

尚、平成30年6月9日、浜離宮朝日ホール（小ホール）にて「三田落語会大感謝祭」を開催し、昼席333名・夜席333名、のべ666名の来場があった。

## 4. 貸し会議室事業に関する事項

### ◇公益目的事業としての施設の貸与事業について

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進し、もって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常（一般）価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献を果たしている。

平成30年度の会議室の公益目的利用実績（公益財団、公益社団等の使用）は237件であった。

## II. 収益事業報告（収1）

### ◇収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間は一般に向けて貸与する事業を行っている。

平成30年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は434件であった。

### Ⅲ．事務報告

#### 1．役員等に関する事項

理事・監事

(平成31年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
会長 (代表理事)	木村清孝	非常勤	平成29年6月23日 (理事再任) 平成29年7月31日 代表理事就任	東京大学名誉教授
理事長 (代表理事)	桂 紹隆	非常勤	平成29年6月23日 (再任) 平成29年6月23日 代表理事再任	広島大学名誉教授
常務理事 (代表理事)	青木晴美	常勤	平成29年6月23日 (新任) 平成30年1月1日 代表理事、常務理事 就任	元株式会社ミットヨ 取締役常務
理事	上山大峻	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	龍谷大学名誉教授
理事	門脇邦彦	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	日本空港ビルデング株式会社 名誉会長
理事	野村邦武	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	元富士銀行代表取締役常務
理事	生田忠士	非常勤	平成29年6月23日 (再任) 平成29年12月31日 代表理事、常務理事 退任	元株式会社ミットヨ取締役
理事	沼田恵明	非常勤	平成29年6月23日 (新任)	株式会社ミットヨ 代表取締役社長
監事	中野東禅	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	竜宝寺前住職
監事	松村智司	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	元第一勧業銀行取締役

## 評議員

(平成31年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
評議員	山田一眞	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	金剛院院主
評議員	小出忠孝	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	愛知学院大学学院長
評議員	市川智康	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	池上本門寺学頭
評議員	塩入亮乗	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	浅草寺本堂部
評議員	平田史郎	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	国府台女子学院学院長
評議員	阿 純孝	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	圓融寺名誉住職
評議員	西本照眞	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	武蔵野大学学長
評議員	中川 徹	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	株式会社ミットヨ 代表取締役会長
評議員	中川敬史	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	株式会社ミットヨ 取締役上席執行役員
評議員	中谷忠雄	非常勤	平成29年6月23日 (新任)	元株式会社ミットヨ 代表取締役専務

## 顧問

(平成31年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
顧問	金光寿郎	非常勤	平成25年4月1日	NHK放送ディレクター
顧問	菅原伸郎	非常勤	平成25年4月1日	元朝日新聞こころ 編集長
顧問	松田正典	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授
顧問	北畠典生	非常勤	平成25年4月1日	浄土真宗本願寺派勸学
顧問	高島孝範	非常勤	平成25年4月1日	仏教伝道協会元常務理事

2. 理事会・監事会・評議員会に関する事項

(a) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成30年6月1日（金） （平成30年度第1回通常）	平成29年度事業報告および収支決算報告の件 重要な使用人の選退任に関する件 定時評議員会開催の件	可 決 可 決 可 決
平成30年11月21日（水） （平成30年度第2回通常）	常務理事の報酬改定の件	可 決
平成31年3月26日（火）	平成31年度事業計画および収支予算書承認の件	可 決

(b) 監事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成30年5月29日（火）	平成29年度財産状況および業務執行状況	正確である ことを確認

(c) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成30年6月22日（金） （平成30年度定時）	平成29年度事業報告および収支決算報告の件	可 決

以 上

## 平成30年事業報告 附属明細書

平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和元年6月  
公益財団法人仏教伝道協会  
代表理事（理事長） 桂 紹隆